

きゅうしょくだより



しんねん むびょうそくさい ねが しょうがつぎょうじ 新年の無病息災を願う正月行事

しんねん むか きもちもあら 3がき はじ 1がき
新年を迎え、気持ちも新たに3学期が始まりました。1月は
むつき なかむつ つき
「睦月」ともいい、「みんなで仲睦まじくする月」ということから
なづ 1がき 1がき
こう名付けられました。年始めの1月には、おせち料理のほかに
ねん ぶし ねが ぎょうじしょく た
も、1年の無事を願ったさまざまな行事食が食べられます。



ななくさ がつ か 七草がゆ（1月7日）

1がき 7がき じんじつ せつく にほん つた ごせつく はる ななくさ
1月7日の「人日の節句」は、日本に伝わる五節句の1つです。春の七草
をおかゆに入れて食べ、ながいきや1年の健康を祈ります。また、お正月の
おせち料理やごちそうで疲れた胃を休めるという意味もあります。

はる ななくさ 春の七草



せり、なすな（ぺんぺん草）、ごぎょう、はこべら（はこべ）、ほとけのざ、すすな（かぶ）、すすしろ（大根）が春の七草です。古くから薬草として使用されてきました。また、七草がゆにおもちを入れることもあります。給食では、1月11日に、「七草ごはん」が登場します。

かがみびら がつ にち 鏡開き（1月11日）

しょうがつ そな かがみ て き
お正月にお供えていた鏡もちを、手や木づちなどで割って、おしるこや雑煮に入れて食べ、1年の健康を願う行事です。「割る」や「切る」という言葉は縁起が悪いので、「開く」という言葉を使い「鏡開き」と言います。給食では1月11日に、もちを入れた「ぜんざい」が登場します。



こしょうがつ がつ にち 小正月（1月15日）

ねん むびょうそくさい ねが がつ にち あさ かぞくぜんいん あすき
1年の無病息災を願い、1月15日の朝に家族全員で小豆がゆをいただきます。小豆の赤い色が病気や災難を追い払うとされています。その年の作物の出来を占う行事や、かどまつ や ぎょうじ おこな ちいき
門松を焼く「どんど焼き」などの行事が行われる地域もあります。



えんぎ た もの 縁起のよい食べ物「なす」

いちふじ にたか さんなすび なん 一富士 二鷹 三茄子 って何のこと？

これは、初夢に見ると縁起がよいとされているものです。まずは「富士山」、次に鳥の「鷹」、そして野菜の「なす」の順番です。富士は「不死」または「無事」、鷹は「高い」、なすは「事を成す」という言葉にかけて、縁起がいいといわれています。

